



2001
(平成13)年生まれ
横山 樹里さん
(久保)

今年は最高学年になるので、三つのことをがんばりたいです。

一つ目は、言葉づかいに気をつけて、下級生にやさしくしてあげることです。二つ目は、スポ少のテニスの大会で優勝できるように、一生けん命練習することです。三つ目は、算数の学習が苦手なので、毎日、自主学習を行い算数が得意になるようがんばりたいです。

今年、小学校生活最後の年になるので最高の一年にしたいです。



1965
(昭和40)年生まれ
横山 浩さん
(上新保)

早いもので気づいたら48歳の年男になります。この間、様々な出会いがあり、特に、この12年間は公私ともにいろいろな人との出会いがありました。その中で多くを学び、教えていただいたことに感謝しています。少しずつ、活かしていければと思っています。

これからも家族に感謝し、一つ一つの出会いを大切に、現状にとらわれず日々好い日であるように肩の力を抜いて、自然体で過ごしていきたいと思います。



「巳年」生まれの方6人に今年の抱負をお聞きしました



日本の神話に登場する蛇はヤマタノオロチ(八岐大蛇)といって、頭が8つ、尾が8つ、体の長さは8つの谷を越えるほどだったといわれています。そのオロチが娘を食いにきて、スサノオノミコトという神に退治されたという話です。

一方、蛇は神格化され、聖書や神話にもしばしば登場します。また、水の神として信仰されたり、家の守り神として家に住みつくのを喜んだりする例もあります。

このように、蛇は悪者として恐れられてもいますが、神としてあがめられることもあり、いろいろな話が世界各地に伝わっています。

蛇は古くから人間とかかわりが多い動物だけに、蛇に関する故事やことわざもいろいろあります。

「蛇足」。これはよく知られている言葉で、日常会話にも使われていますが、こんな由来があります。

昔、楚の国のお役人が、蛇の絵を一番早く書いた者が酒を飲むことができるという競争をしました。一人がいち早く完成したにもかかわらず、時間に余裕があったので足を



1977
(昭和52)年生まれ
渡邊延江さん
(下関)

結婚した年が巳年でしたので、結婚12年目になります。3人の子どもにも恵まれ、育児、家事、仕事にと慌ただしい日々を過ごしながらも、幸せな毎日を実感しております。

忙しい日常の中で立ち止まったとき感じる事、それは人の温かさ。今の幸せは家族、友人、地域の方々のおかげであると感謝しております。今年はそんな方々へ少しでも恩返しができたら・・・。まずは身近な夫から。夫のダイエットにとことん付き合ひましょう。



1989
(平成元)年生まれ
須貝祐介さん
(高田)

昨年の春から社会人となり、故郷関川村で生活しております。今年の目標は、意思を強くもつことです。私は意思の弱いところがあり、妥協しがちなので、今年は挑戦的な一年にすることが目標です。

また、最近、感謝する人が増えたと感じています。家族、東京で居候させてくれた大叔父、学生時代の友人、仕事仲間、先輩後輩など。そんな人たちにお世話になった分、これからの一日一日を懸命に過ごしていきたいと思ひます。



1941
(昭和16)年生まれ
渡邊勝二さん
(上関)

元旦生まれの私は毎年、雑煮で誕生日の祝いしてもらい新しい年がスタートします。6回目の巳年を健康で迎えることができ、本当に幸せだと感じています。

若い頃は、どんなに仕事が忙しくとも休日となると、朝早くから好きなことを楽しむことが出来ました。年を重ねるごとに無理がきかなくなり心寂しさを感じています。これからも健康で過ごすために、体力にあった趣味を見つけ楽しみながら過ごしていきたいと思ひています。



1953
(昭和28)年生まれ
加藤たき子さん
(内須川)

歳を重ねるにつれ、月日が経つのを早く感じる日々です。内須川に嫁いで約40年。地域の皆様にはいつも支えて頂き大変感謝しています。還暦を迎え、体力の衰えを感じながらも家族や友人たちに迷惑をかけないよう毎日頑張っています。

4人のかわいい孫にも恵まれました。今年ももう一人増える予定です。これからは孫の成長を楽しむに、夫と共に健康に気をつけて、身の丈にあった幸せを感じながら一日一日を過ごしていきたいと思ひます。



書き足してしまい、負けてしまったという話です。そのことから、あっても意味のないもの、余計なことという意味に使われます。

「蛇の道はへび」もよく聞くことわざです。「じゃ」といっても、「へび」といっても、呼び方が違うだけで同じもの。同じ仲間のやったことならすぐに分かるという意味です。

「藪蛇」「藪をつついて蛇を出す」。しなくてもよいことをして、かえってよくない結果になることです。

「蛇穴を出づ」は冬眠していた蛇が、春の訪れとともにはい出すこと。社会にはいろいろな出来事がありますが、今年も春のように、明るい日差しが多く注がれることを願いたいものです。